十日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月　金六十錢
□郵稅　金十五錢
□一部一賣　金三錢
□廣告料一行　金六十錢
□雜報欄　金九十錢
□場所指定一行　金一圓廿
□電話（平）七八六番
□振替口座東京一〇八・五六五
福島縣平市田町十六番地
發行所　磐城毎日新聞社
發行編輯印刷人　森合英

閼伽井嶽

地區組合ゝ運用問題

T N 生

平市商業組合創立問題は、地區組合として最初の計劃だけに他へ範を示すことになり、定款の制定や包含する組合員などで創立發起人側の勞苦や思ひやらるるものがある。幸ひ憂慮された內郷、好間兩村側が平商組創立に對する發起人側の誠意を認め、縣當局の斡旋もあつて圓滿裡に擧げて加入することに至つたことは喜ぶべきである。尙殘された上下小川と赤井側の加入問題は愼重に進むことを切に望む

◇

新たに結成されたる地區組合は、二千名を越へる大地帶で、あらゆる業者が包含されてゐるから、これが經營は容易ならざる業であることと論を俟たず、萬一經營上の運用を誤らんか拾收出來ない混亂を招來するの危險性が多分に藏されて居り、組合の指導に當る人々は、勿論愼重を期して研究を重ねて居ることゝ思ふが、物資を流す配給上の機構については大事の上にも大事を執り、萬ヶ一にも統制を亂し、業者に不安を抱かしむるが如き行爲は絶對に避くべきである。

建物の關係もあつて當分各業種別に現在通り分散して執務することに成る模樣であるが、果して完全な統制が行なはれるや否やは疑問とするところで全業種を可急的に一個所へ集めるの方法も必要であらう。

文藝

原稿募集

種類　評論、短歌、俳句、川柳
選　隨意
分量　制限なし

暮鳥氏と私

鵜沼孝昌

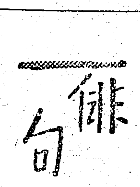
私が在京十年間、惡戰苦闘健康を害して歸鄕したのは大正六七年の頃であつたと思ふ。その頃才槌小路の乾書店（今の佐野屋糸店の處）に行くといつも眼鏡をかけたインテリ風の男がゐて本を獵つてゐる一寸したきつかけから話してみるとそれは山村暮鳥氏であつた。

氏の名は在京中神田の二松堂で愚弟直の紹介で前田、萩原兩氏に初對面した時、暮鳥氏の消息をきかれ赤面したこともあつた。

氏は平市には半生は住んでゐた。聖公會の牧師としてよりは、詩人で通つてゐた。前田、萩原兩氏も我等の畏友であると言つてゐた。全く彼の詩は何ともいはれない立体的な深さがあつた。氏の指導により後に私どもは「群衆へ」といふ詩の雜誌を作る樣になつた。その軍人は柴田君、吉野義也君、齊藤チイさん、佐々木顯君、花岡謙二君等であつた。

氏との交友は三四年であつたが、私としては啓蒙された其の後氏は病にかゝり磯濱町に轉じ、收入もなく困つてゐた、私は弟の經營してゐた雜誌表現社へ童話や小說をかゝせた（一枚三圓であつた）私も時々上京して表現の整理の方を手傳つてゐた（つまり原稿催促係り）丁寧な字をかく小說家の松村武雄氏や亂暴な字をかく何とかいふ評論家やゐる、暮鳥氏も假名遣ひが間違つてゐる、小說は長過ぎると弟から小言をいはれた。

また山村氏の紹介で室生犀星氏も轉向して小說をかいたから、のせて呉れと言はれたり、私も弟に種々不滿足を與へた暮鳥氏もこれからといふところであつたが惜哉大正十三年四十一才で沒してしまつた。



本社文藝部選

雜詠

（平）平子貞男

上り凧尾をふる空の廣さかな
早春の障子に日ねもす鳥の影
こずゑには枯葉にかはるむら雀
鷄聲の霧の中ゆく初詣

野茨句集

（茨城）石田要

薄紺に粧ふ遠嶺や初鴉

（北滿）國井光門

初髮に姑娘膽映え街ゆけり
初凪や馬車（マーチョ）の頸の鈴の音
初春や異國に響く陳太鼓

（東京）佐藤光琴

君恩をくまなく浴びし今朝の春
一億がみなひきしめて國の春

（平）霞ヶ浦人

皇紀二千六百一年を迎へて
閼伽井颪やむとき除夜の鐘がなる
初聲は君萬歳と合唱す
年新た吾が行く道も新たなり

御題

白砂青松波しづもりて初かすみ
み船魂のしであかねさす大旦

連續講談〔96〕

異說赤穗浪士（いせつあかほらうし）

桃川若燕
畫　城木喬

板挾みの辛さ

『先刻俺が見たらば、汝手に傷があるがどうしたんだ』まさか姦夫を殺したとも言へないから、

『これは川崎宿で犬に追はれた時に受けた傷です』

『さうか』

『伯父さん何處かで私を使つてくれませんか』

『さうさな』今茲でお前を突放したら、行くところもねえだらう。よし、此の先に日本橋の四日市と云ふ所があるが、其處に相模屋忠兵衛てえ商人がゐるが、これは俺の義兄のところだからそれへ連れて行つてやらう』

『どうかお願ひ申します』

そこで理吉は主人忠兵衛が見込んで別に惡い事はしさうもない子供だからと店へ置く事にした。相模屋と云ふのは紀州密柑の問屋、まだ八歳だから大して使ひも出來ないと思つて理吉に目をつけてゐるとどうして十四五の小僧も及ばない働き振り、使も早いし夜居眠りもしない、朝明けない內から起きる、大飯も食はない、俗に天下の三根性と云ふのがあつて、僻み根性、奉公人根性、折助根性。

少し油斷があると居眠りをして見たり、隙があると晝寢をして見たり、使に行けば遊んで來たり、店の錢をくすねたり、そんなのが多い中に理吉ばかりは一風變つて閑さへあれば手習をしてゐるから忠兵衛夫婦も我が子のやうに可愛がる、夫婦が可愛がると他の者の氣に入らないのは何處でも同じで古い者は理吉を憎んでゐる。

『チエ疊どん、どうだい家の旦那の珍らし物好きは、內儀さんも內儀さんだね、理吉でなけりやア夜も日も開けないんだから驚いたもんだぜ、親類から菓子を持つて來ても俺達には裾分をしねえで、理吉にア內密で喰はしてゐるんだ又彼の野郎も增長しやがつて大きな面をしてやがるんだ』

『苛めてやれ、構ふ事があるものか』

『然うだ、大勢でやつつけろ』大勢に苛められて辛くて〳〵堪らない、一層此の家を飛び出さうかと思つたが、

『斯うまで親切に世話をして下さつたのを振り棄てゝ飛び出したら恩知らずになる』と云つて話せばみんなで旦那樣に叱られるし、然うなれば、犬の糞の敵で又苛められるに相違ない、情ない事になつたと陰では密つと涙を拭つてゐる、我慢しようにも近頃では苛め方が激しくて迚も居られない、

『仕方がないから御主人に話してお暇を貰ふ事にしよう』と決心してゐると、主人の忠兵衛が、

『理吉や』

『ハイ』

『今日は淺草の觀音樣へ參詣に行くお茶湯日と云つてな觀音樣へお茶を參らせる日だ、供をさせるから一しよに行け』

『ハイ有難う存じます……』

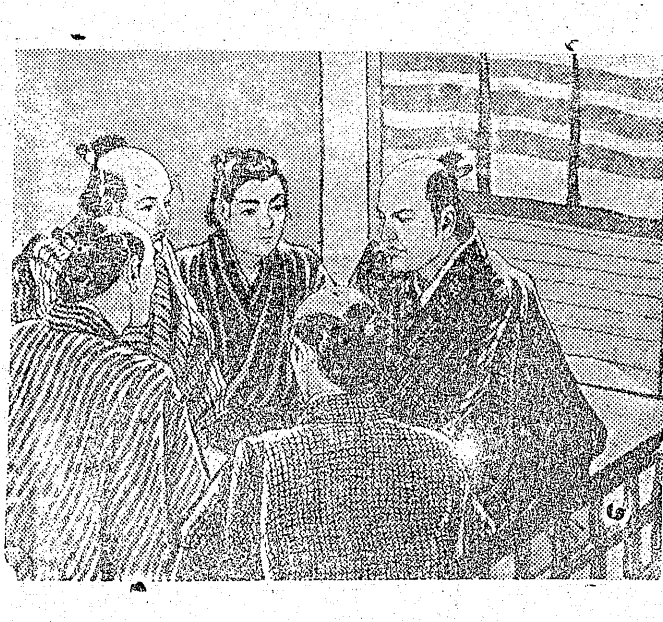
他の小僧と違つて新しい着物、雪駄も踵の拔けるやうなのではない、誰が見ても小僧か倅か判らないやうな容姿をして供をした、觀世音への參詣が濟むと三社へ廻つてこれに參詣、

『理吉や腹が空つたらう、何か食ふか』

『有難う存じます、別に何も食べたくはございません』

『お前は遠慮深いから不可ない、淺草へ來たら是れが食ひたいとかあれが食べたいとか云ふものだ、然う〳〵彼處にあるのは金龍山の餅と云つて今は少し廢り氣味だが昔は名代だつたもの、あれを食べさせよう』

『有難う存じます』



鑛泉と割烹
鐵道指定旅館
小瀧
電話（小名濱）一〇三番

ハピマーチ
五十錠入　一、一〇
百錠入　二、〇〇
德用罐　五、〇〇
特約店　平市五丁目　山野邊藥局

家毎に神樣を祈りませう
檜製神明三社造　三、三〇ヨリ
桃製箱形造　二、八〇ヨリ
檜製大神宮造　五五ヨリ
三神寶鏡、升、入二福神各種其他御宮神器を陳列致しました
さかいや商店
平市六丁目通り　本店千葉市電二、六〇七

安田系統の帝國海上
帝國海上火災保險株式會社
平代理店　關內正一
事務取扱者　阿部助次郎
平市二丁目　電話一六番

新刊書籍　月刊雜誌
特價圖書販賣店
三英堂　村山書店
平市驛前中央通り

內科、產科　婦人科
▽一般診療に應ず△
▽病室完備入院應需△
久保田醫院
小名濱町　電話二二番

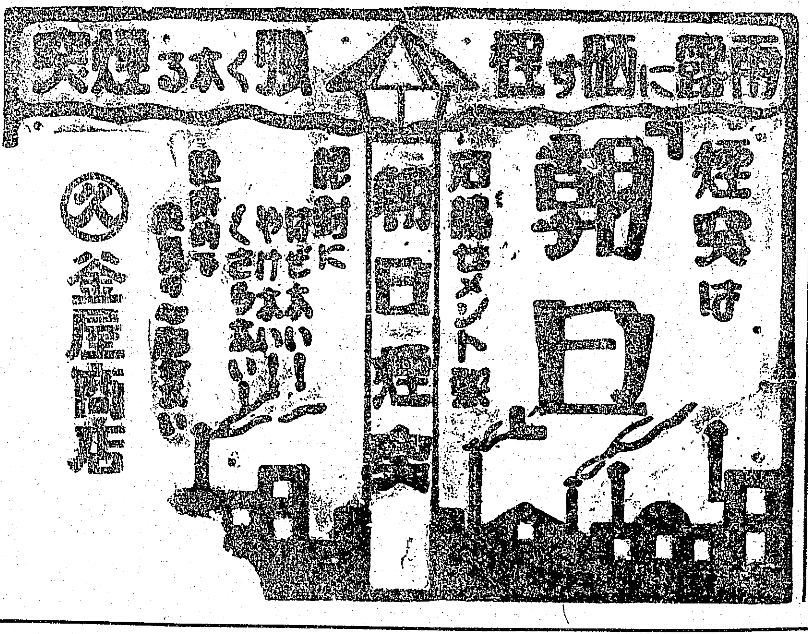
防空暗幕
天幕・シート　防水マント　カーテン・敷物、防水加工
製作　販賣
●設計と施工●
敷島屋商店
平市六丁目六　電呼四八三番

大小の御宴會にホール
御家族の御同伴に御座敷
いつも材料を吟味して居ります
平市四丁目　マルトモ食堂（電話一二三番）

磐城のおみやげ品
みやま羊羹
梨羊羹
小川郷驛前　平屋賣店

シンガーミシン
◎ミシン界に誇る◎
◎斷然日本一の◎
ニツポンミシン
アサヒミシン
精研舍ミシン
ニツサンミシン
販賣代理店
〔型錄進呈〕
平市驛前大通り　シンガーミシン販賣店
石川ミシン商會

平　40錢　2割引　往復券　四倉
▽新舞子　約二丁
▽仁井田浦　約三丁
▽四倉海岸　約一丁
▽波立藥師　約八丁
▽鰐ヶ淵　約八丁
團体は特に御相談に應じます
合名會社　電話五四九
平・四倉・乘合自動車


經濟は
朝日
石綿セメント製
朝日煙突
金屋商店

神戸牛　すき焼
平市仲田町　電話二五〇
茶山

小料理　田毎
仲田町　電二三六

內科、外科
小兒科、花柳病科
會田醫院
小名濱町上横町

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
郡山驛より約三丁
安積中學より五丁
郡山市外大槻村針生
（電話九二五番）
福島縣立代用精神病院
內務省指定　郡山腦病院
院長醫學博士　金磯五郎
▽入院隨時△

內臟外科
泌尿器科
レントゲン科
▽入院隨時△
平市新川町（電話四六四番）
北川外科
醫學博士　北川芳夫

內科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科
平市田町　電話五一三番
高久病院
院長　醫學士　高久忠

外科（內臟、整形）
內科、皮膚科
花柳病科
石井醫院
小名濱仲町　電十八

耳鼻咽喉科專門
レントゲン科
平驛前
高柳醫院
醫學博士　高柳博明
電三三六

產婦人科
外科一般
花柳病科
【見習看護婦募集】
小名濱町小學校前
黑澤醫院
醫學士　黑澤廣
電四五

外科、內科
花柳病科
レントゲン科
小名濱町中島
草野醫院
電話一三七番

口腔外科
齒科一般
植田町（電話七一番）
森合齒科醫院
院長　森合芳男

口腔衛生
口腔外科
矯正科
鈴木齒科醫院
小名濱町銀座通り

商業方面の失業無し
紹介所の窓口閑散
「喰ひつなげるまで」の思案か

經濟機構の强化に伴ひ中小商工業者の失業が相當數に上るものと憂慮されてゐるが、平職業紹介所の窓口には殆んど斯うした逼迫した狀況が見られず、紹介所側でも意外の感を深めてゐる

一時仕立屋さんの轉業者が相當の數に上り、一般に家庭の經濟を引き締めて新調物を控へた國民の緊張の現はれを思はせたが、これ等の職人は一旦古物屋など簡單に入りよい職を求め、これも廢物を吐き出し切つて商賣に成らなく成り、再び轉じて軍需工業や纖維工業の部門に身を投じ現在では失業者が皆無の狀況で右から式へすぐに職工には成り難いらしく思ひ切つて職工に成るまでには相當の時間を要し二段構へで轉入する傾向がある・

中小商業方面から轉業を相談に訪ねた者は十名程あつたがこれ等の人々も馴れない部門に飛び込む不安などもあつてか『五、六十圓位の月給で身をしばられるよりは……』と云ふ風に何か喰へる間は商業を捨てたくないと、何れもどんなものか模樣を聞きに來る程度に過ぎず、眞劍に轉職を相談する純然たる失業者は殆んど皆無と云ふ有業である人を求める方面は猫の手でもほしいと云ふ缺乏振りなので紹介所でも「やつぱり景氣がよいのだらう」と轉失問題には本格的に手を染めてゐない

課長主任會議を開き
事務刷新を圖る
平市役所で新体制を整ふ

平市では明十一日役所內の課長と主任會議を開き明年度豫算案並に市吏員、傭員等の家族手當案・役所の新体制に沿ふ事務刷新等に關し懇談する

十三日市會招集
寄附額決議
磐中、磐女增築費負擔

平市會は十三日午前十時開會新年度に於て增學級を決定した縣立磐中、全磐女の工費負擔額提案承認を求めることに成つた

平市の負擔額は過般の町村長會で決定を見た通り總工費七萬圓の內半額に當る三萬五千圓で、五月三十日までに縣へ寄附納入すればよいことになつてゐる爲新年度に於て起債に求めることになり、今度の市會では單に寄附承認するだけらしい尙市內一般からの寄附金一萬五千圓募集案は促進委員會を設けて當るが、近く具体策を講ずることに成つた

常會とラヂオ
懸賞募集
HKで活用に一肌

仙台HK放送局ではラヂオの機械と常會を密接に結びつける目的の下に「區內會に於けるラヂオ活用」に關する懸賞募集中で、平では一般隣り組の關心を呼ぶ爲常會を通じこれを全戶に知らしめ應募を慫慂することに成つた

締切りは一月末日（發表三月十五日）原稿は四百字詰十五枚以內で一等百圓、二等三十圓の賞金をかけられてゐる

平市銃後會で
軍事扶助協議

平市銃後奉公會の定例役員會は今十日開かれたが、應召軍人の家族慰問と軍事扶助問題について協議した

長橋の町內會
新陣容成る
區會長以下班長、組長推薦

平市長橋區內會の役員は左の如く決定市役所へ報告があつた

△區內會長、川角兼吉（行政區長兼任）△庶務係、小齊宗一郎△會計係、關勝茂△第一班長、小幡留次△同第二、川村和多利△同第三高木敎藏、△同第四、田久千代吉△同第五、橋本德治△同第六、龜岡國友△同第七、小菅榮之助△同第八、中井理吉△同第九、川上誠之助

隣り組長

△第一班、小齊宗一郎、桑原仙松△第二、小野圓次郎會川熊之助△第三、鈴木傳加藤房太、隆矢龜太郎△第四、加澤恒保、木田喜一郎佐藤孝三郎△第五、竹原次英、蛭田利光△第六、酒井賢司、折笠鐵太郎△第七、高木信次、遠藤松之助、淸野喜右エ門、伊藤重次郎△第八、舘川千代吉、吉野健助、武藤次郎三郎△第九、高木忠三郎、若松千秋

工業委員會

工業委員會は十八日會議室に開く

市方面委員會で
舊歲末救濟
貧困者に暖い心やり

平市方面委員會は十五日午後一時から會議室に開き舊正と歲末の貧困者の救濟と軍事扶助關係者の慰問方法を協議することに成つたが從來行つて來た米や木炭は配給制に成つて自由に買ひ與へることが出來ない爲、取締り當局と協諒解を得た上で善處することに成る模樣である

鎌田町でも
區內會長決定

鎌田町の行政區長は缺員中であつたが今回常會の區內會長に白土德彌氏が推薦され市役所へ報告されたので行政區長も兼任に任命されるものと見られてゐる

△區內會長、白土德彌△庶務係靑木龜吉△會計係、阿部治作

電動機、變壓器再製の
平電氣製作所創立
電力機械類に新生面開かる

有限責任會社平電氣製作所創立總會は八日常陽銀行支店樓上に開き發起人の經過報告があつて定款を決定重役選擧の結果

△取締役社長諸橋久太郎△專務取締役藤波時康、同取締役佐藤源吉、松村宏三郎△監査役富永好文、同木村久源

の六氏が選任され三萬圓の工費を投じ市內佃町「ガス會社裏の田圃」へ工場を建設二月初旬から營業を開始すべく大日本電力矢川瀨變電所前田技師に依囑設計を急いでゐる

創立された電氣製作所は從來設備不完全の爲炭礦や工場などの「電動機、變壓器」等莫大な數に上る修理再生品が殆んど東京大阪地方の工場へ廻附され時間的に甚しい不便を來してゐる爲平市內にガツチリした製作工場を設けて平以北の電氣機具、機器の修理兩製品は一切平で喰ひ止め電氣國策に沿ふことに成つたものである

輸送の停頓から
ほゝ刺し暴落
赤字對策に加工業者腐心

生產過剩で悲鳴を擧げてゐる小名濱特產頰刺は連日に亘る鰯の大漁に加へて輸送が統制されたため出荷が相當困難になつて頰刺製品は町內到る處に氾濫相場もがた落となつた最高値二十圓（十貫匁）一ぱいで取引されてゐた頰刺も前記過剩から一擧に十圓台を割つて八圓の慘めな相場となり

この爲業者に違算が生じ既に半數以上は赤字の狀態で今後の對策として輸送陣の强化が叫ばれてゐるが目下の處臨港鐵道の開通以外には善後策は見出せず關係業者は本春には間にあはぬものとして專ら馬車部隊を動員晝夜に亘る輸送に努めてゐる

揚繰網統制問題
秋職中心で進むか
揚繰漁業組合長　三代龜太郎氏談

揚繰網漁業の統制案は石城七濱漁業家の死活問題として縣當局の指導方針とその動向を刮目されてゐるが小名濱揚操漁業組合長三代島太郎氏に希望と對策について語る

大局から見た新体制の動きとして吾等業者としても大勢順應で進まなければなるまい私個人の意見としては揚繰網として最も豐漁期の秋網は全部出漁出來る方法で對策を講じなければならないと思ふ、それには春職を節減して二對の一の割合が三對一の出漁でも忍び尙夏網は全部休漁して他の漁業に携る事も已を得ないと思ふ、揚繰漁の狙は秋職だからこの豐漁期丈けは全部出漁するよう工風したいと苦慮してゐる、要は當局としても資材關係から統制が必要であつてこの注意に進んで迎合すれば血路を展けるものと思つてゐる

四倉鷄鳴會で
創立記念式

四倉町鷄鳴會は今十日午後六時半より本町青年會館に於て創立十週年記念式を擧行終つて第九回定期總會を開いた

酒不足緩和か
新酒出廻りに期待
平稅務署側は藏出し樂觀

舊正月を間近に控へ左黨連の悩みの種は何と言つても酒だ……平稅務所管內今年度釀造高は九千二百余石で前年通りであるが技術の進捗により今年は何分の增石（約百分の三）は期待される

從來本郡の淸酒は移出入共同數であるため前記石數の淸酒は自給自足と成つてをりこれを一戶當りに見ると約三斗、一人當りで約六升と成つてゐる昨年は米穀配給關係から約半年も出廻が遲れ新正月には辛じて間に合つた狀態であつたため本年は大馬力を掛けて舊正月には今年度釀造分のうち早仕込みの分を豐富に出廻る樣同署管內三十六釀造元を督促するから二旬に迫つた舊正月までには何とか間に合ふだらうと同署では語つてゐる

勇士の辛苦に
感謝の243キロ

處女バス試乘記（下）

華北交通會社自動車局內
花澤輝一稿

（殉職英靈に敬虔な感謝をさゝげて走る）

深縣を越えたころから自動車の搖れ方が違つてきた、驀進する前の道路は五米置きぐらゐに切られてゐる、聞けば昨夜から今曉にかけて敵はこの附近にゲリラ戰法を集中、電線、道路の切斷に最後のあがきを示したとのことだ○○部隊の勇士が逞しい腕で土を運んでゐる。

車を停めて○隊長に樣子を聞くと〃昨夜は大部多くきました、いまでもこゝから六キロも行けば奴らの巢です、ちもろん白晝は出てきません夜だけの强盜ゲリラですから、なあにもう立派に修理を終つたところです〃

たのもしい笑顏のうちにも滄石路線、血の警備が思ひやられる、かうした敵の妨害と來襲はこのあたりから武强まで三十三キロは每夜繰りかへされ、衆に寡、わが○○部隊勇士の苦鬪は夜の出動、晝の修理とたゆまない苦しい建設のあけくれである深縣から十粁の小楡林の路盤近くでは警備隊勇士譽れの墓標が三基、われわれの心を打つ英魂なほ護るこの滄石路線二百四十三キロこそ冀中のために倒れた幾多の護國英靈人柱によつて築かれ護られてゐるのだ。

午後一時十分小範鎭に入る滏陽河畔の小村ながら將來水運と陸上輸送の中心點が約束づけられ、天津から邯鄲から遡江する民舟に水夫たちの沸きあがる笑顏がみられる。

けさ九時三十分滄縣を出發した初の石門行はこゝ○○部隊前でわれわれと交歡互に滿載の乘客で西に東に驀進をつゞける「小範鎭」の滏陽河にかゝる「福重橋」は全長七十九米幅六米滄石路線建設に挺身した譽れの「福地部隊」へ重村部隊」の頭文字で名づけられた武勳の橋でもある。

「福重橋」を過ぎた倉石路線は方向を東北に變へ、路盤は地面から二米以上も高く冀中平原は一望のうちに視界に入る。

かこゝら倉縣まで百キロ砂利で固められた道は時速五十キロのスピードで猛進大平原に明朗建設冀中復興の響きを部落に民衆におくりながら果樹園を設け、津浦線的性格の濕地帶と無數の河も田中部隊勇士の架橋で樂に快走暮れる彼方の空に倉縣の光がはやくも視野に入る、路線は津浦線（天津浦口間）の鐵道と併行しつゝ倉縣へ倉縣へ……

築かれた倉石路線に日章旗と華北民衆の色五旗をなびかせつゝ九時間三十分午後五時半冀中の喜びを砂塵に彩りながら歡呼する倉縣民衆の喜びをうけつゝ最初の車輪をこゝに止めた。この路線と共に吾社自動車營業路線粁は一萬一千六七十粁である。（完）

◇

◇

◇

平銃後會へ
十五圓寄附
淸野さんの歸還謝禮

昨九日三年ぶりで歸還した白衣の天使、平市南町淸野いとさんは今十日本社並に關係各方面へ御禮の挨拶に廻り「出征中銃後の皆さまに御世話になりました」と平銃後奉公會へ十五圓寄附した

乳幼兒の
体力向上指導

四倉警察署では草野村を皮切りに左の日程で母性乳幼兒体力向上指導協議會を開催

△十日大浦村、十一日四倉町、十三日大野村△十五日久之濱町△十七日大久村

買物に間誤つかぬやう
公定價展示會
二十一日から三日公會堂で

經濟体制の確立に伴ひ生活必需品並にあらゆる物費の公定價格が定められたが、一般に未だ認識されぬ嫌ひある爲縣では二十一日から三日間平市公會堂に公定價格展示會を開き、物品販賣業者と消費者も價格を間違へずに買物するやう指導することに成つた

出品物は廣範圍な生活必需品と販賣禁止の奢侈品などで主なるものを擧げると酒味噌、醬油類から野菜果實にまで及び、鹽乾魚類、自轉車、菓子類、吳服、洋品雜貨、履物まであらゆる部門に涉つて居り、出品には平商工會各組合などが援助する筈である

小名濱常會の
結成式
十二日學校で擧行

小名濱では大政翼贊會下部組織の成立を見たので來る十二日午前十時より小學校講堂に於て結成式を擧げる事になつた

警備隊から
銃後へ寄附
四倉の志賀淸君

四倉町字戶ノ內志賀淸吉君は目下滿洲○○方面の警備に服してゐるが九日町役場を通じて十五圓を左の團体へ寄附した

△五圓、四倉町銃後奉公會△五圓、國防婦人四倉分會△五圓、小學校備品購入の一部へ

銃後の赤誠

小名濱町納稅組合では組合長鈴木兼吉氏組員一同の名で十五圓七十五錢を銃後奉公會に寄附した、この金は納稅決算の結果余剩金となつたものを全部寄附したものである

お花賣りで
銃後會寄附
感心な少女の眞心

小名濱町第二小學校六年生松浦あき子外五名は全町銃奉公會へ金一圓三十錢を寄附したこの金は冬休中花賣りをし儲けた金全部で所謂汗の結晶なのである

四倉獵友會で
野兎毛献納

四倉獵友會では十二日午前五時より午後三時まで狩獵競技を行ない一等から十等まで賞品を呈するが同競技を利用野兎毛皮献納に協力する

育英資金へ
範を示す
町吏員の篤行

小名濱町では通般より育英資金部を設け同町の人材養成に乘出す事となつたが町役場吏員一同は町民へ範を示すべく十二月分捧給の百分の一たる二十五圓を育英資金として率先寄附した

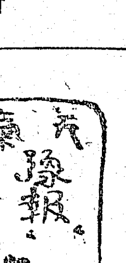
平署の寒稽古
一般の參加を歡迎

平署では明十一日から二十日まで每日午後三時から四時半まで武德殿に寒稽古を開くが一般の參加も歡迎してゐる

平商報國隊が
修養會開く
一般の參加を慫慂

平商業報國隊と平市修養團では十一日午後六時から十時まで平武德殿で月次修養會を開くが一設の參加を希望してゐる

余與の衛生映畫會もあり會費十錢で終了後茶話會を開く



今晚　は北の風曇り後小雨
明日　は北の風曇りお天氣はだんだん良くなるでせう

十一日
滿潮　前三、二五　後一、二五
干潮　前九、四五　後九、四五

舊　十二月十四日
土曜　己未　先勝　破　女宿
新　一月十一日

▲一白　財力以上の計畫は見合はすが安全又病注意
▲二黑　毒にも藥にもならぬが如き日和合專一たれ
▲三碧　物事手堅くすれば不況をも切り拔け得べし
▲四綠　風浪に弄ばさるゝ舟の如し必死の努力肝要
▲五黃　擧手投足忽がせにせず萬事愼重に處理せよ
▲六白　草木根張りて春陽の氣を催すを待つが如し
▲七赤　他人の世話事に身の詰りを生ずることあり
▲八白　多少の苦勞は有たれど大體成功の年を終る
▲九紫　信義厚ければ長上の信用引立を受くる吉日

七日より公開

松竹大船異色篇
原作光畑碩郎、監督大庭秀雄
三浦光子、朝霧鏡子、坂本武、豐島隆一

秘めたる心

年頃の美しい姉妹が望んだものは何？

松竹京都超特作
原作川口松太郎、監督笠井輝二
海江田讓二、大內弘、北見禮子　京都幹部總動員

一一八、[illegible]三郎

滂沱たる熱淚に蔽はれた男の世界、美しい友情のひらめきが一命をも賭して死を飾る壯絕の男ごゝろ

日活超特作御待望の名篇
原健作、阿部五郎、香川良介、尾上華丈、橘公子、香住佐代子
日活時代劇部員總主演

まぼろし城

謎は謎を生んで行く連續時代劇

山險峨々たるまぼろし城の要塞に討幕の狼火をあげた鐵假面の城主皆樣をいつしか事件の渦中に引きこんでゆく大衆映畫の陶醉境

其他　日本ニュース　海外ニュース

御觀覽料　大人五十錢　小人十五錢

松竹平館

第三十三期
決算報告書

昭和十五年十月卅日現在

資產之部

株主勘定	三二、七四七、五〇〇
固定資產	一、〇九八、九三五、一〇〇
投資	六、六九一、二〇〇
流動資產	一〇三、四八九、一六五
雜勘定	三一、三七九、三一〇

負債之部

株主勘定	一、一四六、五三〇、〇〇〇
短期負債	五八九、二四〇、三〇〇
雜勘定	七三四、三五〇
利益	五四、七四五、六五五

利益金處分書

當期純利益	五一、三七四、五〇〇
前期繰越利益	三、三七一、一五五

之ヲ處分スルコト次ノ如シ

法定積立金	二、七四〇、〇〇〇
別途積立金	五、〇〇〇、〇〇〇
慰恤基金	五、〇〇〇、〇〇〇
役員賞與金	四、二〇〇、〇〇〇
配當金	二三、八四八、九八〇
後期繰越金	一三、九五六、六七五

昭和十五年
十二月二十七日
平電力株式會社

興亞の晴衣
國民服

一着万能
職場に
儀場に
戰場に

カタログ進呈致します

平市銀座
大崎屋洋服店
電話九六番

タンス・鏡臺

御婚禮調度品を取揃へました

是非
和久井屋へ
御越し下さい

平市一丁目（電話四〇五番）

時局の生んだ新案特許
日の丸習字板
（第二八〇五七八號）

使用法…半紙節約ノ目的ニテ墨デ書イテ濡雜巾ニテ拭ツテ置ケバ何回ニテモ使用出來マス

實用新案（メモ板　第二七七九〇四號　野球ベール　第一七九七三號　興亞ノート　第三四七九八號）

專賣特許　興亞厚紙　第（イ）一七三六八號　第（ロ）一七三六一號

合資會社
興亞特許商事
同工場　月見町三三